

日本スケート連盟 医事委員会アンチ・ドーピング部会 アウトリーチプログラム報告書

対象競技会：JOC ジュニアオリンピックカップ大会
第42回全日本ジュニアショートトラックスピードスケート選手権大会

対応者
日本スケート連盟医事委員会 アンチ・ドーピング部会
三宮恵利子・鈴木 靖

2022年12月10日～11日
帝産アイススケートトレーニングセンター 参加選手 55名
配布物 使用可能薬リスト100部 クリーンアスリートガイドブック100部

【12月10日】当日予定配布物 クリーンアスリートガイドブック50部、使用可能薬リスト50部

10時00分 アイススケートトレーニングセンター2階にブースを設置
10時10分 選手にアンチ・ドーピングの説明とガイドブック及びリストの配布
17時30分 業務終了 説明配布数 85部

(説明)

- ・ 使用可能リストはスマホ等にデータとして持参することを推奨
- ・ JADA GlobalDRO の使用方法

(質問)

Q 保護者から、花粉症のアレルギーで点鼻薬を使用しているが大丈夫でしょうか。

A JADAのHPや使用可能リスト、アスリートファーマシストに相談するように説明

(日本スケート連盟への依頼)

ブースに今回の対応アスリートの表示を依頼





【12月11日】配布物残数 クリーンアスリートガイドブック15部、使用可能薬リスト15部

9時45分 業務開始

13時00分 業務終了

(説明)

- ・ 使用可能リストはスマホ等にデータとして持参することを推奨
- ・ JADA Global DRO の使用方法

感想

今回はジュニア選手の大会ということで、ドーピング検査を経験した選手は少なく、それゆえアンチ・ドーピングに対する意識も低い、特に、男子選手は「自分には関係ない」という気持ちがあるように感じた。

選手の所属チームの監督等の協力により、ほぼ全員に資料を配布することができ、今後のドーピングに関する知識を得て欲しいと思った。

その中で、コーチや保護者から、現在服用している薬や、今後の対応についての質問もあり、一度会話が始めると様々な意見や思いが出ていたので、ドーピングに対する意識はあることを認識した。

また、ブースの運営にあたり、大会実行委員会の協力で、競技アナウンサーが何度もブースの設置をアナウンスしていただいたり、会場設営についても大変お世話になり助かり感謝しております。

今後については、大会実行委員会と協力して、コーチ会議の場などで、全選手がブースに立ち寄るようにすることも検討する必要があり、現在、各競技で行われている会場に入る際に、検温後にADにシールを貼るように、アンチ・ドーピングの説明を受けた選手にシールを貼ることができれば、選手の意識を高める事もできるとともに、日本スケート連盟としてアンチ・ドーピング活動に積極的に取り組んでいる事を知っていただけるのではないのでしょうか。